

## 平成30年度 草津市立クリーンセンター一年間報告書

平成30年度のクリーンセンターへ搬入されたごみ量や運転状況等を中心に報告書として以下のとおりまとめた。

尚、平成30年3月15日に新クリーンセンターが竣工し、3月16日から本格稼働した。

### 1 ごみの搬入量

平成30年度にクリーンセンターへ搬入されたごみ量は38,627.68tで、平成29年度の37,702.34tと比較すると、2.45%の増となった。

内訳を見ると家庭系ごみは2.84%の増、事業系ごみは1.78%の増であった。

#### 【ごみ搬入量】

		平成30年度	平成29年度	対前年度比
年 間	合 計	38,627.68 t	37,702.34 t	2.45%
	家庭系	24,802.80 t	24,118.93 t	2.84%
	事業系	13,824.88 t	13,583.41 t	1.78%

#### 【市民1人1日当たりのごみ量】

市民1人1日当たりのごみ量を昨年度と比較すると1.63%の増となった。

平成30年度	平成29年度	対前年度比
791.74 g	779.06 g	1.63%

\*参考\*

(国の定義に合わせた1人1日当たりのごみ排出量)

国の定義に合わせ、ごみ搬入量に資源回収量(集団回収)、市外搬出量等を含めた1人1日当たりのごみ排出量を算出すると、次のとおりとなる。

1人1日当たりのごみ排出量 =  $(38,628 + 3,401 + 1,212 + 74) \text{ t} / 133,667 \text{ 人 (住基人口 H30年10月1日)} / 365 \text{ 日} \times 1000 \times 1000 = 888 \text{ g} / \text{人} \cdot \text{日 (平成30年度)}$

(国の定義に合わせた平成 29 年度の実績)

1 人 1 日当りのごみ排出量 (g/人・日)	全 国	滋 賀 県	草 津 市
	920	830	888

※ 環境省 {一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成 29 年度)} のデータ

※ 現時点で発表されている環境省の最新データは平成 29 年度のものです

### 【ごみ搬入量の最大月および最小月】

ごみ搬入量が最も多かった月は 10 月、最も少なかった月は 2 月であった。

ごみ種ごとの最大月・最小月は、下記のとおりとなった。

ごみ種	最大月	最小月	ごみ種	最大月	最小月
焼却ごみ類	10 月	2 月	陶器・ガラス類	9 月	8 月
プラスチック製容器類	10 月	9 月	乾電池	12 月	7 月
ペットボトル類	8 月	2 月	蛍光管	12 月	7 月
空き缶類	9 月	3 月	粗大ごみ	3 月	7 月
飲・食料用ガラスびん類	1 月	3 月	古紙類	4 月	2 月
破砕ごみ類	12 月	7 月			

### 1-1 焼却ごみ（事業系一般廃棄物含む）

焼却ごみ類の搬入量は 33,455.88t で、前年度と比べ 1.23%の増となった。

#### 【ごみ搬入量】

	平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
合 計	33,455.88t	33,048.99t	1.23%
家庭系	19,634.77t	19,474.52t	0.82%
事業系	13,821.11t	13,574.47t	1.82%

## 1-2 プラスチック製容器類

プラスチック製容器類の搬入量は 990.18t で、前年度と比べ 0.63%の減となった。

### 【ごみ搬入量】

	平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
家庭系	990.18t	996.45t	▲0.63%

## 1-3 ペットボトル類

ペットボトル類の搬入量は 293.28t で、前年度と比べ 7.69%の増となった。

### 【ごみ搬入量】

	平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
家庭系	293.28t	272.33t	7.69%

## 1-4 空き缶類

空き缶類の搬入量は 231.34t で、前年度と比べ 3.16%の増となった。

### 【ごみ搬入量】

	平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
家庭系	231.34t	224.25t	3.16%

## 1-5 飲・食料用ガラスびん類

飲・食料用ガラスびん類の搬入量は 712.43t で、前年度と比べ 8.29%の減となった。

### 【ごみ搬入量】

	平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
家庭系	712.43t	776.80t	▲8.29%

## 1-6 破碎ごみ類

破碎ごみ類の搬入量は 683.11t で、前年度と比べ 28.47%の増となった。

### 【ごみ搬入量】

	平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
家庭系	683.11t	531.72t	28.47%

### 1-7 陶器・ガラス類

陶器・ガラス類の搬入量は 321.25t で、前年度と比べ 18.69%の増となった。

#### 【ごみ搬入量】

	平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
家庭系	321.25t	270.66t	18.69%

### 1-8 古紙類

古紙類の搬入量は 1,115.62t で、前年度と比べ 3.28%の減となった。

#### 【ごみ搬入量】

		平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
家庭系	古紙類	1,115.62t	1,153.47t	▲3.28%
	(新聞・広告)	356.45t	390.53t	▲8.73%
	(雑誌・雑紙)	388.94t	395.95t	▲1.77%
	(段ボール)	370.23t	366.99t	0.88%

### 1-9 乾電池

乾電池の搬入量は 23.97t で、前年度と比べ 10.06%の増となった。

#### 【ごみ搬入量】

	平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
家庭系	23.97t	21.78t	10.06%

### 1-10 蛍光管

蛍光管の搬入量は 9.48t で、前年度と比べ 3.07%の減となった。

#### 【ごみ搬入量】

	平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
家庭系	9.48t	9.78t	▲3.07%

## 1-11 粗大ごみ

粗大ごみの搬入量は 791.14t で、前年度と比べ 99.73%の増となった。

持ち込み可能日を月曜～土曜日、祝日の午前・午後に拡大したことや、粗大ごみ処理料金を持ち込みに限り、点数制から従量制へ移行し処理料金が安価となったことから、持ち込みが大幅に増加し重量比で前年度の 2 倍となったと推測する。

### 【粗大ごみ搬入量】

	平成 30 年度	平成 29 年度	対前年度比
合 計	791.14t	396.11t	99.73%
家庭系	787.37t	387.17t	103.37%
事業系	3.77t	8.94t	▲57.83%

### 【粗大ごみ収集件数】

#### 1) 予約申し込みによる収集件数

委託収集	6,326 件
------	---------

(参考) 事前予約申し込み件数 7,056 件、点数 13,583 点

#### 2) 直接持ち込み件数

家庭系	13,282 件
ボランティア清掃	10 件
特例措置	17 件
不法投棄	114 件
災害ごみ	6 件
事業系	63 件
合計	13,492 件

## 2 ごみの資源化

平成 30 年度にクリーンセンターで資源化したごみの量は 3,661t であった。

### 【クリーンセンターでのごみの資源化量】

	資源化量
平成 30 年度	3,661t
平成 29 年度	3,586t

注) 町内会等が実施している資源回収分は、含まず。

平成 30 年度市内で、資源として集団回収した古紙・古布等は 3,401t であった。

### 【町内会等が実施している資源回収量】

	資源化量
平成 30 年度	3,401t
平成 29 年度	3,593t

### 【市外排出ごみ量、および資源化量実績（市町村協議したもの）】

市外へ搬出したごみ量は、1,212t で、その内資源化量は、1,163t であった。

	市外排出量	資源化量
平成 30 年度	1,212t	1,163t
平成 29 年度	1,628t	1,109t

### 【総ごみ量と総資源化量】

	総ごみ量	総資源化量
平成 30 年度	43,315t	8,301t
平成 29 年度	42,923t	8,288t

※総ごみ量＝ クリーンセンター搬入ごみ量＋資源回収量＋市外搬出量

※総資源化量＝クリーンセンターで資源化した量＋資源回収量＋市外搬出ごみの内、  
資源化した量

【ごみ資源化率】

	平成 30 年度	平成 29 年度
資源化率	19.2%	19.3%

資源化率 = 総資源化量 / 総ごみ量

※第 5 次草津市総合計画(第 3 期基本計画)におけるごみの資源化率、平成 30 年度の達成目標 22.3%

※ 参考 平成 29 年度の全国平均 20.2%、滋賀県平均 18.7% (環境省発表)

※ 現時点で発表されている環境省の最新データは平成 29 年度のものです。

## 2-1 金属

空き缶類や破砕ごみ類、粗大ごみから出た金属の資源化量は次のとおりであった。

### 【資源化量】

	スチール (破砕)	アルミ (破砕)	くず鉄	電線	空き缶	合計
平成 30 年度	58.65t	6.37t	304.00t	8.08t	232.92t	610.02t

	スチール (空き缶)	アルミ (空き缶)	くず鉄	粗大くず	電線 ・モーター	合計
平成 29 年度	129.96t	91.05t	180.06t	103.39t	13.66t	518.12t

※金属類の買受業者に譲渡し、資源化。

※新クリーンセンター稼働に伴い金属処理方法に変更があった。

## 2-2 びん類

飲・食料用びん類の資源化量は、次のとおりであった。

### 【資源化量】

	無色	茶色	その他	合計
平成 30 年度	298.64t	182.40t	126.99t	608.03t
平成 29 年度	380.18t	212.26t	150.86t	743.30t

※無色および茶色びんは、カレット工場に譲渡し資源化

※その他の色のびんは、(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じて資源化

## 2-3 プラスチック、ペットボトル

容器包装プラスチック、ペットボトルの資源化量は次のとおりであった。

### 【資源化量】

	容器包装プラスチック	ペットボトル
平成 30 年度	927.64t	244.80t
平成 29 年度	890.55t	247.27t

※容器包装プラスチックとペットボトルは(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じて資源化。

## 2-4 乾電池、蛍光管

乾電池、蛍光管の資源化量は、次のとおりであった。

### 【資源化量】

	乾電池	蛍光管
平成 30 年度	27.26t	8.86t
平成 29 年度	21.32t	8.86t

※乾電池・蛍光管の処理業者に委託し、資源化。

## 2-5 古紙類

古紙類（新聞・広告、雑誌・雑紙、段ボール）の資源化量は、次のとおりであった。

### 【資源化量】

	新聞・広告	雑誌・雑紙	段ボール	合計
平成 30 年度	356.45t	388.94t	370.23t	1,115.62t
平成 29 年度	391.18t	397.46t	368.05t	1,156.69t

※古紙の買受業者に売却し、資源化。

注) 町内会等が実施している資源回収分は、クリーンセンターに搬入されないことから、上記の量には含まれていない。

## 2-6 小型家電

小型家電の資源化量は、次の通りであった。

「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」に基づく資源化。

	制度対象品目	特定対象品目	合計
平成 30 年度	111.00t	8.26t	119.26t
平成 29 年度	0.00t	0.00t	0.00t

※小型家電の資源化は、平成 30 年度から実施。

※制度対象品目：通常家庭で使用する電気機械器具。（電子レンジ、掃除機等）

※特定対象品目：電気機械器具の内、資源性と分別のしやすさから特にリサイクルすべき品目として国がガイドラインで指定するもの。  
（携帯電話、ラジオ、デジタルカメラ、ゲーム機等）

※ガイドライン：「使用済み小型電子機器等の回収に係るガイドライン」

### 3 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の減量化目標値

平成 30 年度における一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の減量化目標に掲げる数値は、下記のとおりであった。

※ 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の最終目標年次：令和 3 年度（平成 33 年度）

#### 【1 人 1 日当りの家庭系ごみ排出量（資源ごみ除く）】

平成 30 年度実績	令和 3 年度（平成 33 年度）目標値
439 g / 人・日	430 g / 人・日

#### 【1 人 1 日当りに換算した事業系ごみ排出量】

平成 30 年度実績	令和 3 年度（平成 33 年度）目標値
283 g / 人・日	285 g / 人・日

#### 【リサイクル率】

平成 30 年度実績	令和 3 年度（平成 33 年度）目標値
19.2%	24%

### 4 発電実績

平成 30 年度焼却炉その他の、各種発電実績および売電料金等は次のとおりである。

#### ○ごみ焼却炉による発電量等

発電量 （焼却炉） kWh	売電量 （関西電力） kWh	クリーンセンター 消費電力量 kWh	ごみ焼却量 t	売電料金 （関西電力） 円
20,378,120	14,502,572	6,048,789	34,494	165,979,335

※焼却ごみ 1t 当たりの発電量（591kWh/t）、売電料金（4,812 円/t）

#### ○その他の発電量（売電対象外）

太陽光 kWh	ガスエンジン kWh
12,396	2,360

## 5 見学者

平成 30 年度のクリーンセンター見学者は、市内の小学 4 年生や市内外の個人・企業など 129 団体、延べ 3,480 人であった。

### 【クリーンセンター見学者数】

	団体数	人数
平成 30 年度	129 団体	3,480 人
平成 29 年度	29 団体	1,496 人

## 6 環境管理

平成 30 年度における排ガス中のばいじん・硫黄酸化物・窒素酸化物・塩化水素、排ガス・焼却灰中のダイオキシン類の測定結果は、いずれも基準値以下であり、適正に処理されている。

### 6-1 排ガスの測定結果

#### 【排ガス測定結果（年平均）】

	単位	基準値 (法)	自主 基準値	平成 30 年度	平成 29 年度
ばいじん	g / m <sup>3</sup> N	0.08 以下	0.02 以下	0.0023	<0.020
硫黄酸化物	(SO <sub>x</sub> ) K 値	8.76 以下	0.2 以下	0.012	0.022
窒素酸化物	(NO <sub>x</sub> ) ppm	250 以下	80 以下	43	112
塩化水素	(HCL) mg / m <sup>3</sup> N	700 以下	130 以下	3.8	6.5
水銀	μ g / m <sup>3</sup> N	50 以下	50 以下	<0.38	—

※平成 29 年度(旧施設)は自主基準値適用外。

### 6-2 ごみ質（焼却ごみ）の調査結果

#### 【ごみ質（年平均）】

	平成 30 年度	平成 29 年度
可燃分	51.79%	55.20%
水分	39.47%	39.50%
灰分	8.84%	5.30%

#### 【組成分析（年平均）】（上記ごみ質の可燃分＋灰分の組成分析）

	平成 30 年度	平成 29 年度
厨芥類	6.49%	6.16%
紙・布	49.54%	51.33%
木・竹・わら類	8.40%	7.82%
プラスチック類	30.85%	31.68%
不燃物類	2.51%	0.93%
その他	2.21%	2.07%

### 6-3 ダイオキシン類の分析結果

#### 【排ガス中のダイオキシン類分析結果】

	単位	基準値 (法)	自主 基準値	1号炉	2号炉	3号炉
平成30年度	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	1	0.1	0.00018	0	
平成29年度		5	—	0.014	0.010	0.014

※平成29年度(旧施設)は自主基準値適用外。

#### 【焼却灰中のダイオキシン類分析結果】

	単位	基準値 (法)	1号炉	2号炉	3号炉
平成30年度	ng-TEQ/g	3	0.00077	0.00000019	
平成29年度			0.046	0.034	0.030

#### 【飛灰中のダイオキシン類分析結果】

	単位	基準値(法)	飛灰
平成30年度	ng-TEQ/g	3	0.44
			0.39
			0.30
			0.24
平成29年度	ng-TEQ/g	旧施設は、基 準適用対象外 施設	0.43
			0.76
			1.5
			0.86